
最強の異世界人

異常者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最強の異世界人

【Nコード】

N2824P

【作者名】

異常者

【あらすじ】

主人公 不知火 龍夜は通学中に女子高生の代わりに交通事故に遭い死んでしまう。

が、次に目を覚ましたのが真っ白い空間だった

え、ここどこ？

はじめに (前書き)

はじめてなので御了承ください

いゝな、いゝな。

俺は不知火 龍夜^{りゅうや}。ちょっと普通じゃないが普通の高校一年生だ（そこ、矛盾してるとか言うな）。

え？なんでもいきなり自己紹介かって？
それはな……………

ここどこ？

〓回想〓

龍夜はいつものように学校に通っていた。

「ふぁ〜〜あ、ねむ……」

——くっそー、昨日の夜ゲームしすぎて眠いぞコノヤロー

寝惚けた目を擦って前を見た。

「！！！？？」

そこには何と一台のトラックが歩道に突っ込もうとしていた。
そこまでなら、まだ何とかなるが、その進路方向がまずかった。

16歳くらいの女子高生が歩いていたのだ。

「おい！！気付いてないのか！！？」

女子高生は耳にイヤホンをつけていた。

「くっそ、」

龍夜は走り出した。

普通の人なら間に合わない距離だが龍夜は一瞬で距離を縮めた。
そして女子高生を突き飛ばし、無事を見届けてから龍夜はトラックにぶつかった。

そこで龍夜の意識は途切れる。

〳〳回想終了〳〳

——ああ、俺死んだのか。

でも、ホントここどこだろう。

龍夜がいる空間らは当たり一面真っ白。
どこまであるのかわからない。

「……あ？あれか？転生ってやつか？」

「そうじゃよ」

突然後ろから声がした。

そこには………

美少女がいた。

神様はおじいさんではなかった!?!? (前書き)

二回目の投稿です

神様はおじいさんではなかった!!?!

前回のあらすじ

真っ白な空間に美少女がいた☆

——って俺の死の説明は!!?!

めんどい☆じゃっ、次!

——ハア、もう勝手にしろ

俺の後ろには何も無かった筈の空間に美少女がいた

「だれ?」

「神様」

と、その美少女がいった

「——よし、病院、行こうか?」

「いやいや! 待つのじゃ!! わらわはちゃんと神様なのじゃ!!」

——どうやら頭がおかしいみたいだ

「おかしくないっ!!!」

「な、なぜ地の文に突っ込める!？」

「地の文? なにかは知らんが心が読めるのはわらわが神だからじゃ」

「仕方ない、認めてやろう」

「……なぜお主が偉そうなのじゃ」

——いちいち神様はうるさいなあ

「そんなことより何の用？」

——まああれしかないだろ

「お主は死んだ、それは知っているな？」

じゃがその死は予定には無かったものなのじゃ。

じゃからお主を異世界に転生させてやろうというわけじゃ。」

——ほら、当たった。

ん？

「それなら、そのまま異世界に送れば良かったんじゃないか？」

「まあ慌てるな

ここからが本題じゃ

お主を転生させる場所は魔法がある世界なのじゃ」

「what?」

「じゃから、ま・ほ・うじゃ」

——神様がいるんだから魔法があってもいいよな!?

「オーケー、で?」

「お主が望む能力を3つ叶えてやる

あ、お主の場合は例外でな、元々地球人には魔力がないのじゃかな、お主には無限に近い程あるからお主には魔力UPは必要ないと思うぞ」

——マジ?

「じゃあまず1つ目、いい?」

「OK」

——じゃあ、テンプレだけど

「完全具現化だな」

「内容は?」

「想像したもの、または現実、空想上にあるものを具現化する能力だ」

「了解じゃ、2つ目は？」

「身体能力の向上

内容は人間の五感と第六感を最大限にする

3つ目は……

俺が飛ばされる世界で、使われる全ての魔法の属性が使えるように
してくれ」

「了解じゃ」

そういうと神様はどこかと交信していた

「了承がえられたのじゃ次の世界に転生したら使えるからの」

「ありがとう」

そういえば名前は？」

「わらわか？ わらわは……アテナじゃ」

「マジ？」

——もっと大きい方を想像しました。

「じゃあ転送するぞ」

「ああ」

「向こうの世界でも元気だな」

その瞬間白い光に包まれ意識が途絶えた

俺が覚えているのはここまで

で、今いる場所は……

大草原でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2824p/>

最強の異世界人

2010年12月10日20時47分発行